



下絵が描かれた紙鯉のぼりを、水性ペンキで丁寧に塗っていく佐賀中学校美術部員たち。

佐賀中学生が紙鯉のぼり色付け
 坂折地区で毎年4月下旬から5月上旬に展示されるカツオのぼりと紙鯉のぼり。同地区では、来年に向けて紙鯉のぼりの作成が始まっています。毎年夏休みには、地元の子どもたちや大方高校美術部員らが色付けを手伝っています。今年も、佐賀中学生も初参加。7月29～31日、同校美術部の1・2年生9人が坂折集会所に集合。生徒たちは「同じ色が隣にならないように考えながら塗った」と楽しみながら色を塗っていました。また、「赤組ファイト！」などのメッセージ入りの紙鯉のぼりも作成。9月15日に行われる同校の運動会で展示する予定です。

家族や近所の方と一緒に避難する姿も見られ、地区の防災意識の向上につながりました。

7月19日、早咲地区で南海トラフ地震を想定した初めての夜間避難訓練が行われました。住民ら約210人が参加。午後8時、訓練開始のマイク放送を合図に各戸を出発し、指定避難場所の高台や介護施設の屋上に向かいました。路面の誘導灯や手にした懐中電灯を頼りに夜道を歩き、県公表の30cm浸水時間である約26分以内に、全員が避難場所に到着。参加者からは、「夏場は、暑い日中よりも夜間の方が参加しやすい」との声もありました。



子どもからお年寄りまで約210人が参加。声を掛け合って高台の避難場所へ向かいます。

早咲地区で夜間避難訓練



自分たちで作ったカツオのたたきはおいしいね!

宮城県の子どもたちと交流
 昔からカツオを通じてつながりのある宮城県気仙沼市と石巻市の小学校5・6年生13人が、8月4日、黒潮町を訪れ、カツオのわら焼き体験などを通じて交流しました。東日本大震災の被災地の子どもたちを招いて、豊かな自然の中で同年代の子どもたちと交流し絆を育んでもらおうと、(社)中村青年会議所が企画した「未来のひまわりプロジェクト」の一環。宮城県の子どもたちは、8月3日に来高。翌日、四万十市や黒潮町の児童と一緒に四万十川でカヌーやバーベキューを楽しみ、20年後の自分への手紙をタイムカプセルに入れて下田公園に埋めました。その後、黒潮一番館にて夕食。カツオのたたきや湯かけ、カツオギョーザなどをお腹いっぱい食べました。地元の漁家民宿に宿泊しました。

砂浜でヨガ・フラ・盆踊り・花火を楽しむ

シーサイドギャラリー-2013 夏

入野の浜で8月15日に行われたシーサイドギャラリー夏。法被姿の踊り子とフラダンサーと一緒に踊る風景は、砂浜美術館の夏の風物詩です。

